

インフルエンザ予防接種の実施について（説明書）

1 インフルエンザワクチンの効果について

ワクチンの接種により、感染を完全に阻止する効果はありませんが、インフルエンザの発病予防や発病後の重症化および死亡のリスクを下げることにに関して、一定の効果があるとされています。

2 インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日でなくなります。また、発熱、寒気、頭痛、全身のだるさなどがまれにみられることもあります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。また、卵アレルギーのある方(食べるとひどいじんましんや発疹が出たり、口の中がしびれる人)は、接種の際に注意が必要です。必ず医師に申し出てください。

3 予防接種を受ける前に

（１） 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解し、気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に医師や看護師、下記の連絡先へ質問してください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任を持って記入し、正しい情報を医師に伝えてください。

（２） 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ インフルエンザワクチンの成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ その他、予防接種を行うことが、不適当な状態にある人

（３） 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある人
- ② 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ③ 過去に免疫不全の診断がされている人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ④ 間質性肺炎、気管支喘息等などの呼吸器系疾患のある人
- ⑤ 前回の予防接種を受けた時に、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人

4 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 接種後30分以内は病院にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- ② 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすらないようにしましょう。
- ③ 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。ただし、はげしい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ④ 高熱やけいれんなどの異常な症状がでた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。